

判決の日を前に体調をくずしてしまい、今日は法廷に行くことができなく残念でしたが先ほど、裕美先生から電話をいただき、結果を教えてくださいました。

「勝訴」すると信じて闘ってきた4年余り、やりきったという思いと、弁護士さんをはじめ、応援して下さった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

17歳の時、看護師さんに「脱腸」とウソを言われて子どもを作れない体にされ、お風呂で何人も体の同じ場所に傷があるのを見ました。当時はただただ、おかしいと思っていましたが5年前、飯塚さんの記事を新聞やテレビで知り、あの時のことがよみがえり、あの時の手術は子どもを作れなくする強制不妊手術だったのだと、はっきりわかりました。新里先生に相談して提訴しました。当時、同じ手術した仲間が自分の顔を見て名乗り出てくれるのではないかと期待しましたが、どうだったのか、私にはわかりません。親も手術のことをわかりながら何も話してくれませんでした。母親、妹は亡くなり、父親は今、施設で暮らしています。息子が裁判を起こしたことをどれだけ理解しているか、わかりません。親から自立した自分だから、裁判を起こせたのかもしれないと思います。これから難しい問題が起きたとしても今は勇気をもって提訴したことに後悔はしていません。勝ったことは心から嬉しいですが、今だに障がい者に対する差別や虐待があることを知ってほしいし、そういう社会が変わっていくことを一番に願います。ありがとうございました。

令和5年3月6日

東 二郎